

# ホスピタウン便り

発行責任者 ホスピタウン事務局  
VOL72 平成27年1月

迎春



聖路加国際メディカルセンター 理事長  
医療法人 真誠会 名誉理事長  
日野原 重明 先生

社会福祉法人 真誠会 理事長  
医療法人 真誠会 理事長  
小田 貢

## 雪の元旦に新しいビジョンを想う

今年の元旦は銀世界で始まりました。

天気予報では元旦から2、3日は大荒れで、雪が降るのはわかっていたので、私は元旦の雪を期待して興奮し、5時30分ごろに目が覚めました。

雪に関しては、やはりホワイトクリスマスが有名でしたし、私もホワイトクリスマスのイメージが好きですが、それはあくまでイメージ的な好みの範囲でしかありません。

しかしながら元旦の朝の白銀の世界は、単に美しいとか好きとかという範疇をこえて非常に精神性の高いものだと思っております。

すなわち元旦の朝の真っ白な銀世界と冷たさは、過去一年間の心の汚れがまったく拭い去られたような新鮮な気持ちになりますし、そのような状態で心が空っぽにされることで、新年のビジョンができやすいと思います。

さて、私にとっての新年のビジョンは何だったのでしょうか。

私は昨年3月に70歳になり本年は71歳になります。そのことを考えればどうしても75歳がちょうどよい区切りになりそうです。その一年前の74歳のときが真誠会の30周年でもあります。正確には私の誕生日と真誠会の30周年は半年の差があるだけですので、この時期を中心に目標が達成できるようなビジョンを立てるのがよいと考えました。

そして個人的にはさらなる医療知識、診断学治療技術、あるいは患者さんを精神的に支援できるような円熟期の医師を目指し、また真誠会としても創立30年にふさわしい社会から信頼され、真誠会の存在なくして米子の充実した医療福祉は語れないほど重要な役割を果たしていることをビジョンとして描いております。

昨年、日野原先生から「幻瞳(げんどう)」という雅号をいただきました。その名に恥じないような大きなビジョンを実現するために邁進したいと思います。

## 第10回 弓浜助け合いネットワーク ～認知症と共に歩む明るい社会～

【主催】米子市（米子市弓浜地域包括支援センター）  
弓浜助け合いネットワークの会実行委員会

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第10回弓浜助け合いネットワークの会」が2014年10月19日、米子市大崎の弓浜ホスピタウンで開かれました。「認知症とともに歩む明るい社会」をテーマに、基調講演やオレンジカフェ（認知症カフェ）の実践報告などが行われました。参加者約250人が認知症について理解を深め、お互いを見守り、支え合う地域をつくっていくことを誓いました。

### 基 調 講 演

## 「支え愛センター・オレンジカフェに託す夢」 ～弓浜から米子を変える、鳥取を変える～



医療法人・社会福祉法人  
真誠会  
理事長 小田 貢

皆さんにとって一番興味がある認知症や地域包括ケアシステムの今後の方向性についてお話しします。

以前の医療と地域包括ケアシステムは、病院といえば鳥取大学医学部付属病院や米子医療センター、山陰労災病院、施設も大型施設にといった、周辺地域から住民が集中する典型的な「広域型、病院施設完結型」でした。

最近は居住地区ごと、広くても中学校区、さらに範囲を絞った和田や河崎、大篠津のような地域の中で全てのサービスが整う地域密着型、地域完結型になってきました。

### 【地域完結型社会へ】

米子市のように大学病院や医療センター、労災病院と大きな病院が三つもあるところは全国でも珍しく、医療面では山陰でトップ、全国でもトップクラスの高度医療が整っています。福祉や介護保険、NPOやボランティアの登録件数も全国でトップクラスです。

皆さんは気軽に大学病院を受診しますが、本来は開業医で対処できない場合に高度な医療を受けるところです。米子の医療環境を当たり前だと思っは大間違いです。

地区ごとで自立した社会を作っていこうというのが政府の考え方です。今までのように長期にわたり大学病院や施設に留まることは困難になり、治療が終われば退院や退所して在宅へ、そして自宅で最期を迎えるような形になります。

行政も含め、住民が一体となって支援する地域完結型の社会を形成する「地域包括ケアシステム」が不可欠になりました。

### 【在宅を支える「見守り」】

在宅ケアが中心となるこれからは、高齢者の在宅での生活を支える仕組みが必要になります。一番大切なことは「見守り」です。在宅の生活支援には、▽訪問して様子をみる▽食事の世話をする▽買い物を手伝うーなどいろいろあります。

昔のような「向こう三軒両隣」の付き合いを組織的につくるのが大切です。近所の人たちで支え合うシステムさえ整えば、退院後の高齢者の自宅での生活が可能になります。

365日チェックするシステムを町や地区で作っていかねばなりません。

他人の世話にならなくても「誰かがやってくれる」、「なんとかなる」という考えは自分を不幸に、また孤独にします。人を助ける、支え合うこと。これが昔からいわれる「情けは人の為ならず」ということです。情けをかける、人を助けることはいずれ巡り巡って自分も助けてもらうことになります。

併せて、自分で自分のことができる命「健康寿命」を延ばすことも大切です。自分のため、人を助けることが自分を助けることだということを忘れてはいけません。

### 【互助の役割増大】

「自助・互助・共助・公助」という言葉があります。「自助」は、自分のことを自分ですること、「互助」は地域で互いに助け合うこと、「共助」は保険、「公助」は生活保護などの国が行うことです。

今後、財政状況から共助と公助の予算は少なくなり、互助の部分、つまり地域で助け合うことを意識した取り組みが大きな役割を担うようになります。普段から近所付き合いをして、地元で互いに助け合って生きていくことが大切になってきます。

真誠会では、オレンジカフェを市内6拠点で開いており、認知症の相談や勉強、意見交換をしています。弓浜認知症初期集中支援チームの設置や弓浜地区の支え合い連携拠点「弓浜支え愛支援センター」の開設は、県内初の取り組みです。

これからは、それぞれの地区で自分自身の健康維持管理に加えて、他人の世話や24時間の見守りなど助け合いの世界、助け合いの社会をつくることをこの弓浜地区から一緒に始めていきましょう。



## シンポジウム

コーディネーター 真誠会医療福祉連携センター長 小山雅美氏

## 弓浜地域における認知症に関する取り組み

米子市弓浜地域包括支援センター管理者 永見直子氏

年々増える認知症患者の対策として厚生労働省はオレンジプランを推進しています。オレンジプランは七つの柱で構成されています。

その中から早期診断、早期対応のために、米子市では認知症早期発見システムを行っています。基本的な流れは、65歳以上の高齢者を対象に生活状況をはじめとする物忘れについての8項目の質問を行います。物忘れの項目にチェックがあった該当者には、自宅を訪問して生活支援アンケートを実施します。その結果、総合得点が正常範囲外の人には受診を勧めています。

実際に早期に認知症が発見され、適切な治療や福祉サービス、地域の人たちの支援を受けて、在宅生活を継続できた事例もあることから、このシステムの推進は大変有効だと分かりました。

今後も皆さんが住み慣れた地域で生活を続けていくために、弓浜地域での認知症早期発見システムに取り組みたいと考えています。

## 和田ふる里オレンジカフェ

和田地区民生委員 大前恭子氏

私が担当する下和田地区では、高齢者の転倒骨折が目立つようになりました。退院後、以前のように積極的に地域に溶け込めず、閉じこもりがちになる人が増えてきました。

和田オレンジカフェは、真誠会6拠点の中で最初にオープンしました。認知症を勉強した仲間でオレンジカフェサポーターをつくり、昼間一人である高齢者をカフェやいきいきサロンへ積極的に誘っています。サロンやカフェに参加する高齢者が、見違えるほど元気になったという報告もあります。

地域と施設と地域包括支援センターのちょっとした共通認識によって連携がうまくいけば、高齢者が安心して住める地域になると思います。「オレンジの日」がその人らしい笑顔の見える時間になれば良いと思います。

## 真誠会弓浜オレンジカフェ

介護老人保健施設弓浜ゆうとびあ管理者 松本智美氏

美保・弓ヶ浜地域は全人口の約3分の1が65歳以上で、認知症高齢者は764人と報告されています。

弓浜オレンジカフェでは「認知症予防」と「認知症の早期発見」に力を入れています。認知症予防では毎回、認知症ケア専門士や医師が認知症に関する身近な話題を交え、参加者にワンポイントアドバイスをしています。のべ10回で計166人が参加し、認知症への関心が深まってきたと思います。

認知症の早期発見ではタッチパネルを使用し、専門医への紹介につなげたいと常に意識しています。課題は、タッチパネル体験時のプライバシー保護の環境を整えることです。オレンジカフェでは、認知症予防について話す輪が自然とでき、今では、参加者同士の交流ができています。

## まちなかカフェわだや

米子市認知症地域支援推進員 吉野靖子氏

若年性認知症の人や家族の相談から行き場のない方の居場所が必要と考え「にっこりの会」を立ち上げました。「にっこりの会」での相談から、認知症の人は、だんだんと家での居場所や生きがいをなくす傾向があることがわかってきました。

国の認知症施策にあるオレンジカフェをさらに発展させ、地域の人とともに過ごせる場所が必要だと思い、「わだや」を作りました。平成26年4月のオープンから半年間で約300人が参加しました。築100年の大きな家なので、建築塾の若者たちも参画し、若者からお年寄りまで多くの人が集います。

運営スタッフは支援者と西部にっこりの会に所属されている1家族（本人と配偶者）です。認知症の方も、話にじっと耳を傾け、共にいるだけで、生き生きと語られます。

## 真誠会富士見町オレンジカフェ

通所介護真誠会ローズガーデン管理者 道祖正紀氏

富士見町オレンジカフェでは、毎月第3土曜日をオレンジの日として午後2時から3時半まで認知症のミニ講座や予防の講座、タッチパネルを使用した相談プログラム、トリゴネコーヒの試飲などを企画しています。

オレンジカフェやオレンジの日の参加主体は健康クラブの利用者で、利用者以外の地域の方や近隣の方の参加は少ないようです。各カフェとも似たような課題を抱え、施設と地域の方々との協働関係が重要だと思っています。

地域包括支援センターや地域のサポーターの方々とのオレンジカフェについての連携はまだ不十分です。具体的な広報の工夫や出前のオレンジカフェなど、今後は各所と連携してさまざまな課題に対して効果的に取り組む活動を展開していきたいと考えています。



## 市民フォーラム「第 5 回認知症サミット鳥取 in くら“し”よし 2014」倉吉で開催

市民フォーラム「第 5 回認知症サミット鳥取 in くら“し”よし 2014」(認知症サミット鳥取実行委員会主催、「新老人の会」鳥取支部など共催)が 11 月 15 日、倉吉市福庭の鳥取短期大学で開かれ、市民らが講演とシンポジウムを通して、地域包括ケアの課題を探り、地域活動について考えました。

会場のシグナスホールには市民や福祉関係者、学生など 350 人が参加しました。



初めに鳥取大学医学部保健学科の浦上克哉教授が「認知症高齢者の実情と予防への展望」と題して基調講演されました。

浦上教授は「全国に認知症の予備軍が 400 万人いるといわれ、高齢化が急速に進む中で対策が急がれる。そのためには多職種協働と地域連携が重要」と連携による地域での取り組みを強調されました。

また、鳥取大学地域学部地域政策学科の竹川俊夫准教授が「鳥取県の地域包括ケアの現状と課題」～住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるために求められるもの～、2015 年 4 月開学予定の鳥取看護大学学長予定者の近田敬子先生が「鳥取看護大学の目指すもの」- 地域包括支援看護と「まちの保健室」- と題して、それぞれ講演されました。

竹川准教授は 2013 年度に実施した地域包括ケアに関するアンケート調査の結果を基に、「医師と福祉専門職の連携が弱く、サービス担当者会議も医師抜きで実施されている。多職種での事例検討会の実施など、連携を意識して日常的に顔の見える関係づくりに努めることが重要」と指摘され、「地域の見守りネットワークが地域の SOS をきめ細かく拾い上げ、住民主体の地域包括システムという方向性が重要ではないか」と提言されました。

近田先生は鳥取看護大学で育成する人材像として「専門的な基礎知識と技能を持ち豊かな人間性で患者に寄り添う人材、地域医療・在宅医療を支える人材、地域で働くことに喜びと誇りを持つ人材」の 3 点を挙げ、「生活支援と介護予防を担う『まちの保健室』は大学を挙げて地域貢献の一環として取り組み、学生はボランティアとして参加する。地域と共に歩む大学を目指したい」と抱負を述べられました。

最後にシンポジウムが開かれ、鳥取短期大学の山田修平理事長・学長を座長に、NPO 法人がいなネット理事長で医療法人・社会福祉法人真誠会の小田貢理事長、浦上克哉教授、竹川俊夫准教授、近田敬子先生をシンポジストに迎えて、「これからの地域包括ケア」をテーマに活発に意見交換されました。



小田理事長は米子市和田地区での地域住民による綿づくりやオレンジカフェ、支え愛センター開設などの実践例を基に、「これからは自分の時間や能力を使って肉体的、精神的な活動や金銭的な社会的貢献が必要であることに気づくことが最も重要。元気なときに助け合いの社会を構築することが、将来の自分の老後の社会の実現に直結する」と指摘されました。

会場の参加者は、熱心にメモをとりながら地域での活動のあり方を考えていました。

## 真誠会事業所長 向け研修会

【介護報酬改定のキーワード】  
人財確保と資質の向上、認知症対策の強化、介護予防・重度化予防への重点化に対し、私たちの連携を更に強化していきます！



株式会社ヘルスケア  
経営研究所 副所長  
酒井 麻由美先生

医療・福祉の業界で全国でご活躍中の株式会社ヘルスケア経営研究所副所長の酒井先生に真誠会にお越し頂き、職員向けの研修会を開催しました。5時間にわたる研修会は二部構成で行われました。

第一部は、今後の医療・介護保険制度の改定の概要に係るものでした。来年から2025年に向けて大きな変化が病院に求められ、それに伴い起こる介護保険制度の変化に私たちは対応しなければなりません。医療と福祉を分断して考えるのではなく、互いに対する理解を深め、その連携を強化しなければなりません。真誠会の全事業所長、ケアマネジャー、相談員が制度変化に対する学びを得たことにより、ご利用者の皆様により連携のとれたサービスを提供できるための土台を築くことができました。

続く第二部は、それぞれのサービス事業所に係る個別の制度変化について学びました。

全事業所長が自分の係る事業所の変化だけでなく、互いの事業所の変化を学ぶことで、仲間のために互いに何ができるかということを考える機会も得ることができました。

この度の学びにより、私たちは今まで以上に具体的な“連携”に向けてサービスを向上させて行きますので、引き続き皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。



心も体も豊かにする

## 買い物リハビリ

で自立支援を

厚生労働省より来年度の介護報酬改訂に向けて次から次へと出ている情報の中で、リハビリテーションの基本理念について、リハビリテーションは「心身機能」「活動」「参加」等の生活機能維持・向上を図るものでなければならないと示唆された。真誠会でも生活機能向上リハビリプログラムの1つとして買い物リハビリに取り組みます。

買い物リハビリとは、実際のショッピングセンターで、楽々カート等を使用して歩き、自分で品物を選び、自分で支払いを行なう事であり生活行為そのものに対するリハビリであります。その効果は①実際のスーパーを歩行する事で、実践に即した歩行訓練が出来る。②楽々カートを使用することで下肢負担軽減・姿勢改善ができる。③自分で必要な物を考えながら購入する。計算をするなど認知症予防ができる。などがあります。

まずは、「買い物」したいという本人のニーズに応えることで、本人の生活意欲が向上することを期待して、真誠会では①楽々カートを使用した歩行訓練②施設内での模擬買い物訓練③ショッピングセンターでの買い物リハビリと段階を踏みながら実践していきます。





# 鳥取県を代表して日本からデンマークへ ～相互理解と友好を深めました～



## 【青年社会活動コアリーダー育成プログラムに参加して】

私は 10 月に内閣府の事業である「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」に参加しました。この事業は、支え合いの社会を築くための地域住民等による社会活動の充実が必要不可欠であるという認識のもと、社会活動に携わる日本青年を海外に派遣し、相互交流を通じて、社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力の向上と、ネットワークの形成を図ることを目的としています。全国の高齢者福祉に携わる参加希望者から選ばれ、私を含め 9 名で福祉先進国であり、世界一幸せな国と言われているデンマークへ高齢者福祉の視察に行きました。期間は 10 日間で、視察先はデンマークの福祉の中核を担う省庁や NPO や協会等に行かせていただきました。デンマークで一番印象に残ったことは「自己決定」でした。自分の人生は自分が考えて決定する。それが徹底的になされているということです。自己決定をするために、自らの人生を真剣に考え、いつまでも健康でいられるように、そして何かあった時の自らの希望（例えば延命など）を決めておられました。当たり前のことですが、現実に日本で当たり前でできているのかは疑問です。当たり前なのにできていない今の日本の福祉や国民の思考は変わる必要があると感じました。



真誠会セントラル  
ローズガーデン  
介護係長 山根 賢一



テーブルには、たくさんの写真が並べられており、利用者さんの楽しそうな表情がとても印象的でした。まるで、美術館のような認知症専門住宅の一室。

1970 年代に財政危機状態から福祉を転換し、世界一幸せな国になった先例は日本の今後目指すべく目標であると感じました。日本は団塊の世代が後期高齢者になる 2025 年に向けて誰もが住み慣れた所で住み続けられるシステムである「地域包括ケアシステム」の構築に向かっていきます。日本の福祉の将来像を見てきた私としては、この経験をまずはこの米子市で自己決定について皆様と真剣に考えていきたいと考えています。



高齢者住宅を訪問して、利用者さんと一緒に集合写真を撮るパチリ★

## 真誠会からキャリア段位制度における レベル認定者が誕生しました!!

介護プロフェSSIONAL キャリア段位制度におけるレベル認定に取り組む介護職員は、全国に広がっており、レベル認定の取り組みが着実に推進されています。

全国のレベル認定者は 219 名。そのうち鳥取県では 5 名がレベル認定されています。(平成 26 年 12 月 19 日現在)

### 【全国のレベル認定者内訳】

レベル 4 : 27 名

レベル 3 : 47 名

レベル 2② : 78 名 ※ 一定の範囲で、利用者ニーズや、状況の変化を把握・判断し、それに応じた介護を実践

レベル 2① : 66 名 ※ 基本的な知識・技術を活用し、決められた手順等に従って、基本的な介護を実践



医療法人・社会福祉法人真誠会では、平成 25 年度よりキャリア段位制度に取り組んでいます。平成 25 年度はアセッサー（レベル認定評価者）の育成に尽力し、平成 26 年度より次々とレベル認定者を誕生させています。

当法人においては、アセッサー（評価者）：35 名、レベル認定者 5 名（レベル 4：2 名、レベル 3：3 名）が誕生しております。

今年度中には、15 名の職員がレベル認定される予定です。

当法人では、以後 2～3 年を目処に全職員をレベル認定し、質の高いサービス提供はもとより、職員のやりがいやスキルアップのモチベーションを高めていきたいと思ひます。

そして、処遇や社会的評価の改善・向上に結びつけていきたいと思ひます。

# 新年のご挨拶 ～本年もよろしくお願ひ致します～



辻田耳鼻咽喉科 院長  
辻田 哲朗

## 不思議の国・ドイツ

昨年ドイツを旅行して思ったことです。今までドイツといえば車のベンツやカメラのライカなどを初めとしてハイテクの国という印象が強かったのですが、ロマンティック街道沿いの街を巡ってみて、昔ながらの伝統を守り続ける頑固なまでのドイツも垣間見えてとても新鮮でした。旅行ではローテンブルクの街に泊まったのですが、ここは中世そのままの佇まいを守り続けていて、日本で言えばさながら江戸時代の街並みがそっくりそのまま残っていて人々はそこで生活しているような感じです。勿論家の中では現代の生活を送っていて、外観だけを残しただけになりますが、そういう古いものを大切にしているドイツ人の気質がとても気に入りました。彼らは自分たちの先人たちが作り上げた文化に誇りをもってそれを大切に次の世代にも伝えたい。そんな気がしました。そう言えば日本に来た外国人が近代的な大都会の片隅に昔ながらの小さな神社があるのを見つけてそのギャップにとっても驚いていたシーンがあったのですが、やっぱり日本人とドイツ人はその生真面目さもあってなかなか似てるなあと思ってしまいました。外国に行っていくつも思うのですが、外から日本を見ると改めて日本のことが見えてきます。文明がいくら進んでも、昔ながらの日本の文化は大切に残して行きたいです。



ところで、今年は未年です。何を隠そう、今年は年男です。と言うかいつの間にか還暦になりました。若いころ還暦の人を見ると人生の先輩としてとても立派に思えたのですが、いざ自分になってみるとなんてことはありません。今年も頑張ります！



いえはら歯科 院長  
家原 猛

## 2015 年頭の辞

2015 年 謹んで初春のお慶びを申し上げます。

昨年暮れ、初めて冬の大山登山を経験することができた。20年ぶりの大山登山であったが、この頃よく山行をしている友人が誘ってくれた。体力の維持や装備などの準備、山登りに関する基本的な知識の習得などは普段から心掛けてはいた。天候についての情報収集など自分なりにできる事をして臨んだ。当日の天候は寒波も緩み、午後に向かって好転の予報。風もなく予定通りのコースを順調に歩くことができた。そこにはこれまで見たこともない風雪が織りなす雪山大山の景色があった。精緻に粉雪を枝に纏った樹木、雪に埋もれたキャラボクと風紋。下山する頃には視界が徐々に開けた。西側にはミルクの里周辺の牧場が確認でき、遠く眼下正面に弓ヶ浜から美保湾、そして東に連なる海岸線が見渡せた。また、途中大山北壁を囲む山々が澄んだ空気の中、陽の光を浴びて輝いていた。少し降りては夢中になってデジカメのシャッターを押し続けた。素晴らしい景色の連続だった。極めて楽しい、恵まれた経験だった。

自宅に帰って思った。幸運の陰で見えにくくなっているが、これらすべては山の事を、大山の事を、そして冬の大山の事をよく知ったメンバー達によってもたらされたもの。一事が万事。自分の人生がどれだけ多くの方々によって支えられているか。支えられてきたか。これからも多くの方々の知恵と力を拝借し、ご指導頂きながら、今年も新たな試みや精進を重ねて参りたいと思います。

皆々様のご健勝とご多幸を心から祈念しつつ、新年のご挨拶と致します。

# 新年のご挨拶 ～本年も



医療法人真誠会理事  
真誠会セントラルクリニック  
院長代理  
地域医療統括  
石部 裕一

## ひつじの群れの中のヤギ

新年明けましておめでとうございます。

今年はひつじ年ですね。暖かくて、温厚で、すごくふかふかしたイメージ。十二支性格判断によれば、ひつじ年の人は、まさにそのイメージどおり、温厚で温和、従順で優しい性格です。内面には、どんな困難にも屈しない精神力と忍耐力を兼ね備えています。

キリストは民衆をひつじに例えました。羊は群で行動するが迷いやすい動物で、迷うと自分で牧場に戻って来られないと言われていました。人間も迷いやすい存在で、迷ってしまうと、自分の知恵と力だけでは、本来自分のいるべき所へ戻ることができない。だから迷えるひつじには導きがいるという意味を持っているらしい（クリスチャンで無いので??ですが）。

ひつじは草を食む。しかし、その食み方は普通ではなく、一個所に拘り最後には根っこまで食らい尽くすという性質があるという。つまり、ひつじだけを群れとして放牧しておくとう草原を次々と根絶やしにしてしまう。欲深いというか愚かというか人間の所業に似てなくもないですね。そこで遊牧の民はひつじの群れにヤギを数頭混ぜておく。ヤギは賢いのか野生に近いのか草を根絶やしにするような食べ方はせず動き回る。一方、ひつじにはもう一つ癖があり、主体性は無いが他人のあとを無意識について歩く。これには、股の付け根などにある脂腺から発散される匂いが仲間の認識に役立っているらしい。結果、ひつじの群れはヤギの動きまわるのに応じて移動する。こうしておけば放牧地が荒れることもなく、長い間平和な牧畜生活が続けられる。これが遊牧の民の知恵らしい。

真誠会にはボスヤギはいますが、大きな群れのひつじ達を導くためには、ボスを支える子ヤギがまだまだ必要です。各部署に子ヤギは育っていますか。大きくなれ子ヤギ達。真誠会の未来は君たちの成長にかかっている。

かく言う私もひつじ年、6回目の年男。今年は老ヤギに変身しようかな。



看護・介護統括部長  
三ツ木 育子

## 2015年の年頭にあたって

### ～事業所長(管理者)への想い(正夢・ゆめ)

迎えた新年は、未年、メイ～メイ～と明るい年になると願っているところですが、医療・福祉を取り巻く環境は、超高齢社会の到来に向かって、ますます厳しいと言われていています。とりわけ、年金で暮らす高齢者の方々の医療・介護を支える真誠会にとっては、本年度の介護報酬改定を直前にとらえ、且つ、2025年を見据え、今まで培ってきた正念場の改革の実行あるのみです。

真誠会では、組織の要となる各事業所長クラスを対象に平成24年から3年計画で、法人から絶大なる教育支援を受けて、外部講師の指導のもと、戦略マネジメントやシステムアプローチが可能な管理者育成に力を注いできました。

一人一人の管理者が変化する外部環境や顧客のニーズを分析し、柔軟に適応できる自事業所の戦略を立案する学びの3年目を終える現在50人の管理者が育成されています。

自事業所のあるべき姿からのGAPに対して、スタッフと共に一体となって改善に取り組む管理実践研修は、各事業所長にとっては、初めての事でありましたが、土、日返上で熱心に喰らい付いて学んで来ました。今年度からは、学んだ管理運営のPDCAを展開して成果を出していきます。

私は、管理者養成研修を企画、運営しながら、一人一人の管理者の誠実さと、潜在能力の高さを認識するとともに、組織人として、真誠会理念を遵守する意識と帰属意識が醸成されたと強く感じています。

管理者一人ひとり(メイメイ)が未来に投資できる素晴らしい真誠会を創造する推進力になると確信しています。



# よろしくお願ひ致します～



介護老人保健施設  
弓浜ゆうとびあ  
施設長 五明田 孝

明けましておめでとうございます。新しい羊年を迎え今年が素晴らしい一年になるよう願っています。年末には思わぬ総選挙が行われ結局、変化や大きなサプライズもなく終わったのは少し残念な気もします。医療介護の分野では団塊の世代が 75 歳を迎える 2025 年問題が大きな課題となっています。高齢者 4 人を一人が支える時代に直面し地域住民が一体となって地域で支えあえる地域包括システムの構築が急務となっています。

言うわ易しく行うは大変困難な情勢にあります。真誠会ではそれに向かって着々と先進的な種々の取り組みがなされています。来年度から介護報酬が 4% 減で調整されていると言われていています。介護職員の業務は厳しく待遇面でも恵まれず人手不足は深刻化している現状にあり引き下げ分でも待遇改善を是非図ってほしいものです。政府も景気浮揚には賃金増加が不可欠との認識があり今年には明るいニュースになることが期待されています。



介護老人福祉施設  
ピースポート  
施設長 矢倉 敏久

新年おめでとうございます。今年の干支はおとなしい羊ですね。去年は尖閣諸島の領有権の問題で中国ともめるし、エボラ出血熱だ Dengue 熱だということで大騒ぎになりました。年末には北海道では爆弾低気圧とかで海の水位が高くなり、根室市では 300m もの内陸まで海水が入り込むという騒ぎもありました。何とか、新年は羊のように静かな一年であってほしいと思います。さて、弓浜ホスピタウンでは昨年の 11 月から工事をしておりまして、利用者の皆様に大変ご迷惑をおかけしております。この工事は、弓浜ホスピタウンを原発事故があったときの一時避難場所にするための工事です。具体的には、3 階から、エレベーター内部、浴室前の廊下、職員用出入口に至る部分の機密性を高めるとともに内部気圧を高くして、外から放射性物質を含んだ空気が入って来ないようにする工事です。原発事故は無いとは思いますが、万が一に備えての工事です。工事は 2 月末には終わる予定です。その間ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。



**本年も真誠会は、高齢者が住み慣れた家庭で安心して暮らせることを目指し、質の高い医療福祉サービスを提供したいと思います。**



# 新年のご挨拶 ~本年も



看護部副看護部長代理  
通所リハビリテーション真誠会  
真誠会セントラルクリニック  
看護師長 佐平 登志美

日本はこれから、超高齢化社会へ入っていきます。認知症高齢者数は、2013 年の報告では、65 歳以上の 6.6 人に一人の実数が報告されています。医療や介護などの社会保障は、大きな変革を迎えます。社会がどのように変わっていくとも、私たちは、患者さんや社会から求めら

れていることは何かを常に考えながら、より安全で良質な医療と介護を提供できるようこれからも努力してまいります。



真誠会医療福祉連携センター  
センター長 小山 雅美

真誠会医療福祉連携センターは、相談に来られた方が「ほっと」していただけるために、とことん相談をお受けする窓口として業務を行っております。

そして、在宅医療連携拠点事業として、『医療』と『介護』の連携強化とともに『地域包括ケアシステムの構築』をすすめて

ております。

引き続き、トータルな支援が実践できるよう相談窓口としての機能を充実してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



通所介護真誠会  
セントラルローズガーデン  
管理者 山根 賢一

昨年は皆様のご支援とご協力にて、多くの方にご利用いただきありがとうございました。真誠会セントラルローズガーデンは利用者様がいつまでも笑顔で元気に過ごして頂きたいと思っております。介護の専門施設として専門的な評価を用いて、個人の目標に向かって支援

させていただきます。昨年同様変わらぬ真誠会セントラルローズガーデンをよろしくお願い致します。



介護老人福祉施設  
ピースポート  
看護師長 小徳 美千子

昨年度「ピースポート」は多くの事業所の皆様に支えていただき、年を越すことができました。有難うございました。

介護制度の改正により、介護老人福祉施設入所は介護度3以上の方に限定するということになり介護度は益々重度化し、より高い介護技術を持った職員が必要になってきます。

昨年度、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度」により、ピースポートからも二名の職員がレベル3の認定をいただきました。それに続く職員も現在準備中です。

今後職員一同一丸となつてご利用者、ご家族の思いを尊重した、安心・安全で豊かな生活を過ごしていただけるよう、地域の方々に選んでいただけるような施設を目指して職員一同力を合わせていく所存でございます。



訪問リハビリテーション  
ゆうとびあ  
課長 大西 博巳

利用者の方が住み慣れた地域・住み慣れた自宅で安心安全な生活が継続できる事を事業所のミッションとしております。ミッションを達成する為に今年

の目標①自宅での生活行為（排泄・入浴など）向上に向けての具体的な目標を立案し、生活行為に対してリハビリを実施する。目標②社会参加に対する取り組み（趣味活動・買い物・調理・就労支援など）も本人のニーズに合わせて実施する。目標③体験訪問リハビリの実施。以上の目標に取り組んでいきます。



介護老人保健施設  
ゆうとびあ  
係長 岡田 修治

ゆうとびあは今年で開設 20 周年を迎えます。これもひとえにご利用者、ご家族の皆様をはじめ、地域の皆様・関係各位の皆様方のご支援、ご厚情の賜物と深く感謝いたしております。

現在、2025 年に向け国を挙げて「地域包括ケアシステム」の構築の準備が進められている中、老人保健施設としての役割も重要視されています。

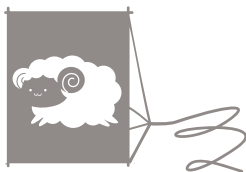
今年は老人保健施設としての役割である「在宅復帰」を強化していくためにも、ご利用者様個々に合った方法を一緒になって検討し、安心して在宅で生活できるよう切れ目のないサービスの提供を目指し取り組んでいきたいと思っております。

# よろしくお願ひ致します〜



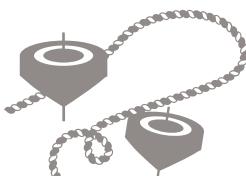
透析施設オアシス  
主任 加瀬部 寛

近年、高齢化社会となり透析患者様の年齢も以前に比べ高齢化となりました。そのため重度認知症患者様に対し透析中、苦痛を感じることなく安心して透析療法が行えるようチーム一丸となって透析中の補助具を開発・使用し研究に取り組みました。結果、中国腎不全研究会では賞を頂くことが出来ました。私たちのモットーは「安全・安心な透析療法を提供すること」です。愛と知識を持ち信頼される透析室を目指していこうと思いますので今後とも宜しくお願い致します。



介護老人保健施設  
弓浜ゆうとぴあ  
係長 松本 智美

平成 26 年弓浜ゆうとぴあは老健の 5 つの役割（包括ケアサービス・リハビリ・在宅復帰・在宅支援・地域交流）の中でリハビリの強化、在宅復帰に力を入れてきました。在宅復帰後自分達の関わりについて振り返りを行い気付きが持てるよう全職種で取り組み、今後のケアに繋げ質の高いケアを目指しています。平成 27 年は老健の役割の在宅支援、地域交流に力を入れ、地域包括ケアの役割を果たし、地域に根ざした施設を目指します。



複合型サービス  
真誠会ふる里  
介護支援専門員 陰山 佳代子

ふる里は、昨年 9 月より「複合型サービス事業所」となりました。訪問看護が加わることで、今までより医療面での支援が必要な方の利用が増えてきています。平成 27 年 4 月の介護保険法改正により、今まで以上に医療面での支援が必要な方が在宅で生活されます。その方々が安心して生活が送れるように、支えていける事業所となっていけるようスタッフ一同努めていきたいと思ひます。



リゾートケアハウス  
リバーサイド  
看護師長 矢倉 ツヤ子

ケアハウスは 60 才以上で自炊できない程度の方を対象としている施設です。創立 15 年が経ち、リバーサイドも高齢化しましたが、不思議なことに皆様実年齢より 10 ~ 20 歳ぐらいい若く見えるのです。かつて美智子皇后は「日本は長寿の国となり、本当に良い国になりました。」と言われたことがあったそうです。誠にそのとおりの思ひます。

健康長寿を目指しつつ、ご近所助け合いながら一生懸命暮らしておられる姿に、いつもながら深く感銘を受ける毎日です。「年寄り笑うな行く道だ・・・」入居の皆様は私どもスタッフの人生の良き先生でもあります。このような職場で働かせていただくことは本当にありがたく思ひます。



グループホーム  
椿庵・桜庵  
管理者 安田 博子

グループホーム椿庵・桜庵はご家族の皆様、地域の皆様のご協力で開所して 1 年を迎えることができました。2 年目となる今年は、認知症専門の事業所として、質の高い認知症ケアを提供するのみならず、認知症の勉強会や相談受付など、皆様から頼りにされる事業所をめざしていきたく思ひます。また、環境が整えば、住み慣れた自宅やご家族の元に帰って生活ができるような支援も行っています。職員一同開かれた活気あるホームを心がけております。ぜひお気軽にお立ち寄りください。



グループホーム青松庵  
管理者 木綿 咲枝

グループホーム青松庵は開所して 11 年を迎えました。昨年は自治会の構成員として防災組織に加わり防災訓練には自治会の方が多数参加して下さいました。これからも地域との繋がりを大切に地域住民として安心して暮らし今迄以上に地域の方やご家族様が気軽に立ち寄り下さる環境づくりに努めてまいります。



# 新年のご挨拶 ~本年も



富益しあわせデイサービス  
管理者 福島 貴雄

富益しあわせデイサービスは、通所介護、認知症対応型通所介護として「自立支援の観点から在宅生活の継続が図れるよう、社会交流、認知症予防、認知症ケアに取り組み、皆様を支援させていただきます。

また、昨年より行っておりますオレンジカフェの取り組みと

共に、住み慣れた地域で最後まで生活できる、地域の皆様と一緒に支えあえる地域を目指して、取り組んでまいります。オレンジカフェへのお越しもお待ちしております。



介護予防センター  
真誠会  
主任 山崎 慎吾

介護予防センター真誠会が開所して7年目に突入いたします。多くの方々にご利用頂き、ありがとうございました。来年度には介護保険の改正があり、介護予防の仕組みも大きく変わります。その中で私たちの役割をしっかりと発揮していきたいと思っております。

また、健康クラブにおいても多くの会員様にご利用いただき、昨年末では4事業所(河崎、弓浜、セントラルローズガーデン、ローズガーデン)合わせて、200名の登録会員数に到達致しました。

今年も皆様に色々な運動プログラムやイベント開催し、皆様に喜ばれる事業所づくりに努めてまいります。



居宅介護支援事業所  
真誠会  
管理者 松田 久美子

居宅介護支援事業所真誠会の今年度の目標としては、第一に、地域の利用者様が要介護状態となっても、住み慣れた自宅で、その能力に応じて自立した生活が安心して送れるように、他職種との連携を強化し、ケアマネジメントの質の向上に努める。第二に、介護保険の改正に向けて、勉強

会を重ね、準備をしていきたいと思っております。第三に、重度者や支援困難ケースも積極的に担当し、地域から選ばれる事業所になる。以上の目標に向けて、職員が協力して頑張ります。



通所介護真誠会  
ローズガーデン  
管理者 道祖 正紀

真誠会ローズガーデンは、リハビリ強化型デイサービスとして「運動習慣の継続、社会的交流、認知症予防への取り組みを行い、自立支援の観点から在宅生活の継続が図れる様、皆様を支援していきたいと考えています。

また、オレンジカフェの取り組みと共に、住み慣れた地域で最後まで暮らす事が出来る地域を目指して、小さな事からでも地域の皆様のサポートが出来る様にサービス提供を行っていきたく思っております。



ケアプランセンター  
セントラルローズガーデン  
管理者 森脇 美佐緒

米子中央ホスピタウンで4名の常勤のケアマネが在宅の高齢者のご家族の方のご相談を承っております。

ご高齢者は体調を崩される事もあり、止むを得ず入院となったり、一時施設に入所されることもあります。従って、再び在宅を目指し、途切れのない連携と支援をしっかり行って行きたいと思っております。

地域包括支援センターや民生委員さんなどのお力を頂きながら、住み慣れた自宅、地域の中での生活を送っていただけるよう頑張ります。



ケアプランセンター  
弓浜真誠会  
管理者 竹内 奈緒美

介護が必要になっても、認知症になっても、いつまでも住み慣れた地域でいきいきと生活していただけるようにケアプランを作成いたします。

地域の皆様や専門職の皆様と今年もしっかり連携したいと思っております。



# よろしくお願ひ致します～



訪問看護ステーション  
ネットケア  
所長 神田 典枝

地域包括ケアシステムや病床の機能分化が進められるなか、在宅医療・訪問看護のニーズもより高まっています。

「自宅で過ごしたい」という利用者様・ご家族様の気持ちに寄り添い、安心して医療・看護を受けながら在宅生活を過

ごしていただけるように職員一同努力してまいります。



医療法人真誠会 常務理事  
社会福祉法人真誠会  
総務課長 前田 浩寿

今年 4 月には介護保険の改定がありますが、この機会を私たちはチャンスと捉え、皆様に選んで頂けるようなサービスを提供したいと気持ちを新たにしております。

また、私たちが 12 年前の未年から取り組んできた「地域の皆様がご自宅で住み続けるため」の仕組みづくりである「真誠会地域包括ケアシステムモデル」を更に充実したものにすべく、今年も新しい取り組みを発信し続ける真誠会でありたいと考えております。引き続き皆様のご指導、ご支援を賜りますようお願い致します。



メディカルフロンティア  
生活支援隊  
課長 長山 誠司

有限会社メディカルフロンティアは、真誠会グループの各施設へ「安心安全美味しい」食事の提供と利用者の皆様へ「迅速丁寧親切」なる福祉介護用品の販売貸与を行っています。弊社の福祉介護部門は「高齢者生活支援隊」として米子市を中心に営業しており「お困りご

とは生活支援隊へ」をキャッチフレーズに高齢者等の要望に親身になって対応しています。今年度は更なる生活支援サービスの充実を目標として社員一同頑張ります。



訪問介護弓浜真誠会  
管理者 赤井 康人

『定期巡回・随時対応型訪問介護看護』を開始し 2 年が経ちましたが、日々の訪問時に、ご利用者様やご家族様より「毎日来てくれる、こんな便利なサービスがあったとは知らなかった」「もっと早く利用していれば良かった」などの声を耳にすることがあります。

まだまだ地域の方に対して当サービスが認知されていないと感じており、今年度は「住み慣れたご自宅で未永く」を合言葉に、皆様にとって役に立てる存在であるよう、取り組んでいきたいと考えております。



医療法人真誠会  
総務課長 長谷川 俊彦

銀行勤務から医療法人真誠会に再就職し、8 ヶ月が経過しました。現在は、早期に医療・福祉業務の理解を深めるため研鑽を行っております。

今年は、今までの経験及び知識を生かし、真誠会で働く職員が希望を持って安心して勤務できるよう、職場環境の改善や人事システムの構築を目指します。それにより、利用者の皆様へのサービス向上につなげたいと考えます。



# 聖路加国際メディカルセンター 理事長 医療法人真誠会 名誉理事長 日野原重明先生を訪ねて

## 日野原名誉理事長にインタビュー

**小田理事長** 日野原先生にとって、今年は何が一番印象に残った1年でしたでしょうか。

**日野原名誉理事長** 私は10月4日に103歳の誕生日を迎えました。心臓の精密検査を受けたところ狭窄症と分かり、手術を受けるには高齢であり、車椅子を使いながらこれまでの活動を続けることにしました。車椅子を使えば自由に国内、国外の講演活動はつつがなく行えることが分かり、私の行動範囲はますます広がる一方です。全国で講演していますが、鳥取での講演会にも行けることを楽しみにしています。小田先生が、今後もさらに希望を持ちながら真誠会を立派なものにされることに対して、私が援助できることは光栄なことです。私と小田先生と一緒にさらに長寿できることを希望しています。小田先生がビジョンに向かって夢を実現され、そのことに私がお手伝いできることを非常に光栄に思っています。一緒に頑張っていきましょう。関係者の皆様によろしくお伝え下さい。



**小田理事長** 今日はお忙しいところをありがとうございました。日野原先生のますますのご活躍をご祈念いたします。

## 外浜ホスピタウン 平成26年地域交流合同餅つき会 ~複合型サービス真誠会ふる里・椿庵・桜庵~

平成26年12月18日に賑やかに餅つき大会が行われました!!



「ヨイショー! コラショー!」の掛け声! 熱気と活気で、外の寒さもへっちゃらです。



地域の方と一緒にお餅をこねました。



みんなで食べると、より美味しいね( ^ ^ )

## 理事長写真

## 金沢の冬景色

撮影/医療法人・社会福祉法人 真誠会 理事長 小田 貢



雪景色の金沢城。江戸時代のまま現存する石川門は国の重要文化財に指定されており、加賀百万石の風格を漂わせるその堂々たる構えが印象的です。



ひがし茶屋街は、今でもキムスコ(木虫籠)と呼ばれる美しい出格子がある古い街並みが残り、昔の面影をとどめています。冬には雪化粧した黒瓦が城下町の風情を漂わせませす。